

会 議 録

会議の名称	第2回小金井市公共施設在り方検討委員会
事務局	企画財政部企画政策課
開催日時	令和6年11月25日（月）9時30分から11時30分まで
開催場所	小金井市役所 第二庁舎8階 801会議室
出席者	委員長 市古 太郎 副委員長 讃岐 亮 委員 土山 希美枝 浅野 正道 梅根 拓也 中谷 行男 村井 芳久 小西 由華 鈴木 浩司 谷越 瑞希
欠席者	
事務局	庁舎建設等担当部長 高橋 啓之 公共施設マネジメント推進担当課長 田中 克知 企画政策課企画政策係主査 郷古 陸 委託事業者 パシフィックコンサルタンツ㈱
傍聴の可否	☒ 可 ・ 一部不可 ・ 不可
傍聴者数	3人
会議次第	1 開会 2 議事 (1) 検討の進め方について（本日の位置づけ） (2) 公共施設等の現況等について (3) 公共施設機能の現状とこれからの在り方について ① 各課ヒアリング結果の概要について ② 職員検討会について ③ これからの公共施設の将来ビジョンについて ④ これからの公共施設の将来ビジョンを踏まえた必要な機能について ⑤ 相乗効果が見込まれる公共施設機能の組合せについて 3 その他 (1) 市民ワークショップについて

	(2) 次回の開催日について 4 閉会
会議結果	別紙のとおり
発言内容・ 発言者名 (主な発言 要旨等)	別紙のとおり
提出資料	資料 1 検討の進め方 (本日の位置づけ) 資料 2 公共施設を取り巻く概況 (前回からの追加資料) 資料 3 各課ヒアリング結果の概要 資料 4 公共施設在り方・再編方針策定における職員検討会 (第 1 回) 結果概要 資料 5 公共施設機能の現状とこれからの在り方 資料 6 市民ワークショップの概要
その他	

市古委員長

それでは定刻になりましたので、始めさせていただきます。本日はお忙しい中、ご出席いただきましてありがとうございます。本日は委員全員ご出席されていますので、本会議は成立しているということをご報告申し上げます。それではまず配布資料について、事務局より説明をお願いします。

郷古企画政策課主査

おはようございます。それでは配布資料について説明をいたします。本日、配布させていただきました資料は、「資料1 検討の進め方(本日の位置づけ)」、「資料2 公共施設を取り巻く概況」、「資料3 各課ヒアリング結果の概要」、「資料4 公共施設在り方・再編方針策定における職員検討会(第1回)結果概要」、「資料5 公共施設機能の現状とこれからの在り方」、「資料6 市民ワークショップの概要」、それから資料2に記載しております「防災拠点マップ」の画素数が粗いため、委員の皆さんには補足資料として防災マップの原本を配布しております。最後に第1回検討委員会開催後に、「意見・提案シート」が提出されましたので、委員のみ参考資料として配布しております。

資料等の不足等、大丈夫ですか。ありがとうございます。

各資料の個別の説明につきましては、後ほど、各議事にて説明させていただきます。なお「意見・提案シート」につきましては、前回の検討委員会でご了承いただきましたとおり、各委員に参考資料として配布し、委員から審議に取り上げたいという申し出があった場合は、審議の内容等を考慮しながら必要に応じて議事として取り上げることにしております。配布資料の説明につきましては以上です。

市古委員長

ありがとうございました。資料については、各議事のところでご質問等あれば、伺っていただければと思います。「意見・提案シート」は、内容を確認しますと、本検討委員会の検討の進め方等についてのご意見と受け止めております。個

別の議事としては取り上げないでもよいかと思いますが、ご意見あればご発言ください。いかがでしょうか。

(「異議なし」の声あり)

市古委員長

ありがとうございました。

それでは次第に沿って議事を進めさせていただきます。議事の(1)「検討の進め方について(本日の位置づけ)」について、事務局の説明をお願いいたします。

郷古企画政策課主査

それでは資料1「検討の進め方(本日の位置づけ)」をご覧ください。本資料は、第1回検討委員会において「公共施設の在り方・再編方針」のイメージと検討の進め方として説明いたしました内容について、一部変更をさせていただきたいということで作成したものです。

具体的には、検討委員会の第3回の検討内容を、前回の検討委員会でお示しした内容から変更させていただければと考えております。前回の説明では、第3回の検討委員会の検討内容として、エリアの考えについて検討を行うと説明をいたしました但、第3回の検討内容に「これからの公共施設に求めること」を追加したいと考えております。

本日配布させていただきました資料1にお示ししています、検討委員会の第3回の部分に下線を引かせていただいておりますが、この下線を引いた部分について追加しております。

理由としましては、本日の議事の(3)「公共施設機能の現状とこれからの在り方について」の③、④、⑤の内容については、今回の在り方検討の核となる部分であり、より丁寧に議論していく必要があるのではないかということ、それから、前回の検討委員会で村井委員、市古委員長からいただきました「検討委員会と市民ワークショップ、庁内検討の連動した検討について」のご意見を踏まえ、より連動した検討ができ

るのではないかと考えたことが理由です。よろしければ、本日の議事の(3)「公共施設機能の現状とこれからの在り方について」の③、④、⑤については、次回以降の検討委員会においても、議事とさせていただければと思っております。説明は以上です。

市古委員長

ありがとうございました。本件ご意見・ご質問等ありましたらお願いいたします。

委員長として要望ですが、まず、資料については可能な限り前もってお送りいただけるとありがたく思います。今回、詳細な資料を配布していただいておりますので、十分な議論を行うためにもお願いします。それから、前回の検討委員会でどのような議論が行われたのかという資料が必要かと思っています。今回の公共施設の在り方・再編方針の検討を進めていくに当たっては、庁内検討、市民参加と検討委員会が連携して進めていくわけですから、第1回の検討委員会、本日の第2回の検討委員会でどのようなことが検討されたのかという資料はご作成いただきたいですし、それを庁内検討や市民参加のワークショップにも、ぜひ生かしていただきたいと思っています。

郷古企画政策課主査

資料については、今回委員の皆様への送付が直前となつてしまい申し訳ありません。それから検討委員会の議論については、次回以降、どのように対応できるか検討させていただきます。ありがとうございます。

市古委員長

その他、何かございますか。資料1は本検討委員会の進め方についてですので、よろしいでしょうか。

それでは議事の2、「公共施設等の現況等について」、事務局の説明をお願いいたします。

郷古企画政策課主査 それでは、資料 2「公共施設を取り巻く概況」をご覧ください。本資料は、前回の検討委員会において各委員より資料のご要求があったものを取りまとめたものです。資料の枚数が多くなっておりますので、説明についてはご要求いただいた委員、資料の概要の説明とさせていただきます。

まず、1 ページ、小金井市の大方針（上位計画）をご覧ください。こちらは、梅根委員よりご要求いただきました「市の考え方である市の基本方針や基本計画のうち、公共サービスに係る部分について分かる資料」として作成したものです。内容としましては、第 5 次基本構想・基本計画の内容から公共施設に関する内容を抜粋させていただいております。

続きまして、資料 2 ページ、「小金井市都市計画マスタープラン」をご覧ください。本資料につきましては、特段委員からご要求をいただいたものではございませんが「小金井市の将来のまちのあるべき姿及びまちづくりの方針」など、おおむね 20 年後のまちの将来像を示す資料としてお示ししたものでございます。都市計画マスタープランでは、市域を武蔵小金地域・東小金井地域・野川地域と 3 つの区分けをし、それぞれのまちづくりのコンセプトを定めております。資料には各地域のまちづくりの基本目標等をお示ししておりますので、ご参考にしていただければと思います。

続きまして、資料の 3 ページ、「公共施設とバス停留所との関係」をご覧ください。こちらは小西委員よりご要求いただきました「各公共施設のアクセスの視点で情報を整理した資料」として作成したものです。市内のバス停と公共施設との関係について、バス停留所から 300 m 圏域について分布図としてまとめたものです。300 m につきましては、徒歩 4 分程度の距離で行ける範囲として設定をしております。

次に同じく 3 ページ「駅勢圏から見た公共施設の分布」をご覧ください。こちらは先ほどの小西委員の「各公共施設のアクセスの視点で情報を整理した資料」、それから讃岐副委

員長よりご要求いただきました「近隣市の公共施設の設置場所が分かる資料」として作成したものです。鉄道の各駅からの距離を分布図として記載するとともに、近隣市の公共施設の設置場所を地図上にプロットとしてまとめたものです。

次に同じ３ページ「再開発の動向」をご覧ください。こちらは、土山委員よりご要求いただきました「再開発を見込んだ人口動態情報の資料」として作成したものです。土山委員からご要求いただいた人口動態としてお示しするのが難しかったため、武蔵小金井駅北口駅前東地区市街地再開発事業に関して概要を記載させていただきました。計画では、４１５戸の住宅建設が予定されていると聞いております。

続きまして、資料の４ページ「東小金井駅北口まちづくり事業用地について」をご覧ください。こちらは小西委員よりご質問いただきました「東小金井の居間（リビング）の計画に関して」の資料として作成したものでございます。本市では、東小金井駅北口まちづくり事業用地における最適な公共施設の整備及び公共資産の活用を図るため、今後の基本的な進め方を明確にすることを目的として、平成２５年３月に「東小金井駅北口まちづくり事業用地整備活用計画」を策定しております。その後、平成３０年４月に「東小金井駅北口まちづくり事業用地整備活用計画の推進に向けて（中長期計画方針）」を公表し、事業用地につきまして、中期的にはおおむね１０年間、現状の駐車場運営を継続するとし、市財政負担の軽減に努めることとしております。活用計画にて示されている「やさしさと生きがいの拠点」として「賑わい」、「交流」、「生涯学習」、「健康・福祉」の４つの機能の整備に向けて、令和８年度以降、再度検討を開始し、施設整備に向けて取り組んでいきたいと考えております。

次に同じく４ページ「庁舎等複合施設建設に伴う跡地等活用について」をご覧ください。本資料につきましては、特段委員からご要求をいただいたものではございませんが、東小

金井駅北口まちづくり事業用地と同様に、今後、土地等の利活用が見込まれるものとして、ご参考までに資料を作成いたしました。本市では、現在、新庁舎・（仮称）新福祉会館建設事業を進めておりますが、市役所庁舎等の移転後に生じる本庁舎跡地、本庁暫定庁舎敷地、保健センター敷地及び貫井北町文書倉庫敷地の活用の方向性について、令和５年３月に庁内方針を策定しております。これらの跡地等の活用については、新庁舎・（仮称）新福祉会館建設事業の進捗を踏まえながら、令和８年度以降、具体的な活用の検討を進めていく予定です。

次に資料の５ページ、６ページ「公共施設の防災上の位置づけ」をご覧ください。こちらは村井委員よりご要求いただきました「有事の際の避難場所となる施設情報の資料」として作成したものです。内容としましては、防災拠点マップと地域防災計画より、指定避難場所等のリストを示させていただきました。村井委員からは「各避難所の想定人数について分かるもの」についてもご要求いただいたところですが、担当する地域安全課に確認したところ、避難所の避難者数につきましては、令和４年５月に東京都防災会議が公表しました「首都直下地震等による東京の被害想定の方針」を基に、市内の最大避難者数２万１０９１人の３分の２とされる約１万４、０００人と全体想定をしているとのことでした。ただし、個々の避難所で何人の避難者が来るというシミュレーションは難しいとの回答でありましたので、各避難所の想定人数が分かる資料としてはお示しができておりません。申し訳ございません。

次に資料の７ページ「高齢者・障害福祉を取り巻く現状」をご覧ください。こちらは中谷委員よりご要求いただきました「介護が必要な人の推移、身体障がい者、知的障がい者、精神障がい者の推移の資料」として作成したものです。

続きまして、同じく７ページ「児童生徒数及び学級数の変

化」をご覧ください。本資料につきましては、特設委員からご要求いただいたものではございませんが、市立小中学校の児童生徒数の変化については参考となるかと考え、資料として作成したものです。

次に資料の 8 ページ「集約化・複合化」をご覧ください。こちらは讃岐副委員長よりご要求いただきました「集約化・複合化に対する市の位置付け等に関する資料」として作成したものです。集約・複合化につきましては、小金井市公共施設等総合管理計画の基本的な考え方において「集約・複合化を推進すること」を基本的な考え方として位置付けております。また、参考として集約化、複合化の事例を資料としてお示ししております。事例の示し方につきましては、意見・提案シートにてご意見を頂いておりますが、前回も今回も同様ですが、集約化・複合化の他自治体の事例の 1 つとして、参考までに記載をさせていただいております。

次に資料の 9 ページ「学校と地域の連携」をご覧ください。こちらは村井委員よりご要求いただきました、「コミュニティ・スクールの関係で地域と学校の取り組みが分かる資料」として作成したものでございます。地域学校協働活動 本部事業の実績と地域未来塾の活動実績について、資料としてまとめております。

続きまして、資料の 10 ページから 25 ページまで「公共施設の利用状況」をまとめたものです。こちらは村井委員よりご要求いただきました「利用状況が分かる資料」として作成したものです。なるべく最新の情報をお示ししたほうがよろしいかと考え、毎年作成しております事務報告書をベースに、令和 5 年度の実績を基本として定量的に利用状況をまとめさせていただきました。利用状況につきましては、今後も分析をしていきたいと考えているところです。

最後に資料としてお示しはできておりませんが、土山委員より前回「公共施設マネジメントの構築に向けて」を策定以

降の内部評価レビューを示していただきたいというご質問をいただいておりますので、口頭ではありますが回答させていただきます。

「公共施設マネジメントの構築に向けて」は、これからの公共施設の在り方を考える上で、単なる更新計画、保全計画ではなく、マネジメントの視点をもって施設の全体最適を図る必要があるため策定したものでございます。「公共施設マネジメントの構築に向けて」は、本市における公共施設マネジメントの基本計画を定めており、この考え方に基づいて本市の公共施設マネジメントは行われてきているものと認識しています。

「公共施設マネジメントの構築に向けて」において定める基本的な考え方、「総量の抑制」、「P P Pの活用」、「保有資産の有効活用」については、公共施設等総合管理計画においても同様の考え方を持っておりますし、本市の公共施設マネジメントの基本的な考え方として、全庁的に浸透しているものではないかと考えております。このようなことを踏まえますと、本市の公共施設マネジメントの基礎となるものとして、一定効果があったものと考えております。

一方で、施設の全体最適を図る必要があるためとして策定した当時の目的を考えますと、全体最適の取り組みとしては、本市としてはまだまだ取り組みを推進していく必要があり、この点は課題になっているものと認識しております。この施設の全体最適を進めていくためにどのように考えていくべきなのかという課題についての1つのアクションが、今回検討をしております、公共施設の在り方・再編方針の検討です。

「公共施設マネジメントの構築に向けて」で定めているとおり、公共施設を経営資源として捉えマネジメントをしていく際に、施設更新費用が市政運営に与える影響を抑えていくことを1つの目標として、捉えていく必要があるとは考えておりますが、市民が小金井市に魅力を感じてもらい、まちづく

りに寄与し、まちが活性化するといった視点で公共施設を経営資源として捉えることも、1つの観点かと考えております。そのような点では、「公共施設マネジメントの構築に向けて」の考え方を踏まえながら、今回検討しております公共施設の在り方・再編方針の考え方にに基づき、公共施設の全体最適を図っていきたいと考えております。

説明が長くなり申し訳ありませんでした。説明については以上です。

市古委員長

ありがとうございました。ご意見・ご質問等いかがでしょうか。

讃岐副委員長

詳細な説明ありがとうございました。資料の最後、公共施設を取り巻く状況の利用率と利用状況について意見させていただきます。公共施設、公共空間を含めて、経営の資産としてマネジメントをしていかなければいけないというご説明がありました。そのように考えた場合、この利用状況というものの捉え方も、多種多様になるのかと想像しています。この資料はあくまで検討委員会の中での資料ですから、これでよいのかもしれません。これから施設の評価をしていくに当たり、この利用状況を施設種類ごとに考えるのか、全体最適として考えるのか議論の余地があると思います。この状況をどのように捉えてどのように評価していくのかという指針が今のところないわけです。その基準、指針といいますか、そのようなものが今の段階では提起できないのではないのでしょうか。市として、どのように考えているのか分かると、議論が行いやすくなるのではないかと思います。

利用率、利用時間をどのように評価するといった基準のようなものの整理があって初めて、この利用状況が示せるのかと思います。それについては今日でなくてもいいかもしれませんが、議論する必要があるのではないかという意見です。

市古委員長

ありがとうございます。利用率を根拠としつつ、この検討委員会の目的である、公共施設機能の在り方についてどのような論点があるのかということ、事務局からデータをお示しいただいたほうが良いということは、全くそのとおりかと思います。今回の公共施設の利用状況の資料について事務局としてどのような意図等でご提供されたのか事務局からご説明をお願いします。

郷古企画政策課主査

今回、各施設の利用状況等をお示ししておりますが、先ほど説明させていただきましたとおり、まずは各施設の直近の実績をご提示しております。市としてこの利用状況をどのように分析していくか、また、その基準といったものをどのように考えていくかについては、お時間をいただきたいと思います。利用状況の捉え方として、単純に利用率が低いから、利用ニーズが低いと捉えてしまうこともできるのかもしれませんが、どのように利用状況を捉えていくかについては、検討させていただければと思います。

市古委員長

ありがとうございます。利用率の関係で関連して、私からも意見させていただきます。西之台会館図書室と前原町西之台会館のように、既に複合化している施設については、利用率をどのように見たらいいのか、実態に即して現場の職員の感覚含めて定義いただければと思います。それから複合化が既にされている施設、今回の検討において論点になる訳ですので、既に複合化している施設については示していくことも必要かと思います。

それから3ページの公共施設とバス停留所との関係の資料ですが、微妙に位置がずれていませんか。今申し上げた、西之台会館図書室の位置をよく見ると、もう少し北のほうではないですか。

讃岐副委員長

その点から付言すると、供給処理施設に当たるものなのか分かりかねますが、小金井市の外側にあって小金井市のマークが付いている施設があります。今委員長からご発言があった、少し北のほうではないですかということ踏まえると、位置が微妙にずれていることはないでしょうか。

田中公共施設マネジメント推進担当課長

今、讃岐副委員長からご指摘いただいた施設は、旧二枚橋の焼却場の跡地に建設されております、野川リサイクルセンターかと思えます。資料では、確かに市域外の部分になってございますので、この資料にお示ししている各施設の位置については、改めて確認をさせていただきます。

市古委員長

ありがとうございます。この分布図はこの検討委員会のアウトプットとしても、ワークショップへの提供資料としても重要な資料かと思えますので、A3サイズにして、具体的な施設名も追記していただいたほうが、いいのではないかと思います。その他、ご意見・ご質問等いかがでしょうか。

土山委員

ご説明、ありがとうございました。私からもいろいろ難しいことをお願いしてしまって申し訳ありません。「公共施設マネジメントの構築に向けて」の総括を口頭でいただき、施設の全体最適を図るということでは、まだ取り組みを推進する必要があるということで、この委員会もその取り組みの一環であると理解しました。また、公共施設マネジメントに当たっては、経費の視点もあるが、経営資源として捉えることも重要であるという、ご説明があったかと思えます。これは、「公共施設マネジメントの構築に向けて」の総括としての話なのかどうか確認させてください。

田中公共施設マネジメント推進担当課長 ご質問いただきました点ですが、事務局の見解ということで、ご理解いただければと思います。庁内として総括を行ったということではございません。

土山委員 総量抑制の目標がある中でも、経費だけではなく経営資源と捉えることも重要であるというご認識だということで承知しました。私もそのように思いますので、確認させていただきました。ありがとうございました。

鈴木委員 今、小金井市で新庁舎と新福祉会館建設事業が進んでいるかと思います。今朝、宮地楽器ホールの1階に模型が展示されていたのを見てきました。この事業は、約130億円かける事業で、庁舎機能に保健センターとシルバー人材センターと社会福祉協議会が合築していくということで、これからの公共施設に求められる考え方というのが詰まっているかと思っています。ここまで進めるに当たって、職員、市民、そして議会も含めてかなり議論したかと思っています。

今回の公共施設の在り方を議論するにおいて、今、小金井市が取り組んでいるこれだけの大きな事業との関係性というのは、本検討委員会で触れなくていいのかという疑問がありますので、ご見解をお聞かせいただければと思います。

田中公共施設マネジメント推進担当課長 ご質問いただいた点ですが、今回のご議論につきましては、庁舎が移転した後の形態というところが、そもそも前提になっております。今回、公共施設の在り方・再編方針の検討を令和6年、7年でご議論いただき、策定します方針に基づいて令和8年以降、各施設の在り方を個別に検討をしていくことを想定しております。新庁舎・（仮称）新福祉会館事業は現行計画ですと、令和10年に新庁舎へ移転する計画となっておりますので、その形態になることを前提として検討を進めていく考えでございます。

鈴木委員

保健センターやシルバー人材センター、社会福祉協議会が合築するという考え方ですね。その考えに至った経緯を知った上で、これからの公共施設の未来を議論するべきかと思っています。

高橋庁舎建設等担当部長

鈴木委員のおっしゃるとおりで、庁舎・福祉会館の建設事業については、長く議論をしてきた経緯があります。全く触れないのかという話になると、やはり市の中でも一番大きなステップですので違和感がありますが、議論がそこに入っていきますと、その部分だけの議論になってしまうという危惧がございます。鈴木委員がおっしゃるように、庁舎と福祉会館の複合施設ですので、この検討委員会で議論をする内容と繋がる部分はあるかとは思いますが、本検討委員会では、先ほど公共施設マネジメント推進担当課長が申し上げたとおり、庁舎移転後を前提として話をしていきたいと考えております。

鈴木委員

新庁舎と新福祉会館事業の是非について議論に入っていく必要はないと思います。当然進めて行くべき事業だと思いますが、その考え方について本委員会で示し共有すべきかと思っています。これは私の意見です。

市古委員長

ありがとうございます。新庁舎・（仮称）新福祉会館建設については、既に実施設計まで進んでいる段階ですので、これまでも市報等で市民に向けて情報発信はされているかと思っています。コンセプトやそれからどのような機能であるといった考え等について市報等から情報をご提供いただけると分かりやすいですかね。

鈴木委員

なぜこれだけ大きな事業を行っているのに、未来の公共施

設を語る本委員会で、どのようなコンセプトで新庁舎と新福祉会館が合築されたのかという情報を検討委員会で共有しないで進めようとしたのか少し疑問に感じます。

次の議題の職員ヒアリングの資料を見ますと、複合化が可能かどうかという項目があります。この複合化という考えが前提にあって、新庁舎と新福祉会館事業は進められてきたのかと思いますので、その考え方について触れていただければと思って質問をさせていただきました。新庁舎と新福祉会館事業の是非について掘り下げて議論するような意図ではありませんので、ご理解ください。現在小金井市で決定している最新の複合化の考え方だと思っています。

中谷委員

資料の中で触れていく必要かどうかという視点ですが、資料の中で教育委員会が所管している市外に設置している清里山荘という施設があります。また同じ市外という視点で見ますと、可燃ごみ処理施設については、市外の施設にて他市と共同処理を行っています。このような市外にある公共施設については、そのような施設があることについては、どこかで資料等で掲載する必要があると思います。

田中公共施設マネジメント推進担当課長 資料としては、現状の施設状況についてお示しできると思います。

村井委員

防災の関係で資料を作成していただきありがとうございました。その関係で、1万4,000人が避難所に行かなければならないだろうという想定はあるのですが、どの避難所にどのくらいの人数を受け入れるかという算定が難しいということですが、各避難所で何人収容するという想定があって、そこに必要な物資等を保管しておかなければいけないと思います。そのような想定が無いのであれば作らないといけないと思いますし、そのような想定をこのような検討委員会の

場で開示していただき、今後、施設の統廃合を行う上では必要なものではないかと思います。

田中公共施設マネジメント推進担当課長 ご指摘は受け止めさせていただきますが、あくまでも今回ご議論いただく公共施設の在り方の検討というこの検討委員会の場においては、現状お示ししている情報や想定等を基にお願いすることになるかと思います。ご指摘いただいている想定については、今回検討をしています公共施設の在り方・再編方針に基づく個別施設の検討を行っていく際には一つの検討材料かと思っておりますが、今回の全体の在り方等を検討していく際に個別の検討まで議論の中に入れていくのはなかなか難しいのではないかという認識です。

村井委員 分かりました。

谷越委員 集会施設の利用状況について、この利用状況が多い施設であったとしても、おそらくバリアフリー等の対応が難しい施設というのはあるのかと思います。利用率が多いからこれは残していくとしても、その施設がバリアフリー等の対応が難しい構造等であった場合、そのような施設を存続していくのは良くないのかと思います。今後継続していく施設については、バリアフリー等の対応は必ずやらなければいけないことだと思いますが、その際にバリアフリー等の対応を行った場合、どのくらいの設備費用や保守費用がかかるなど、そのような想定はおそらくされていないのではないかと思います。設備の維持として可能である施設と、高額な投資をしなければ設備維持ができない施設については、利用状況と一緒に確認できる資料があるとよろしいかと思います。

郷古企画政策課主査 どのような対応ができるか検討をしてみますが、バリ

アフリー等の対応がどこまで可能か、その費用がどのくらいかという内容ですと、個別に設計等を行う必要等があるかとも思いますので、資料としてどこまでお示しできるかは検討させていただければと思います。

土山委員

先ほどのご説明で再開発の動向として415戸の住宅建設が2026年に着工を予定されているという話がありました。一般的に考えますと、若い世代の方がお住まいになることが多く、その場合、小学校など学校施設の需要が高まることが見込まれますし、施設の在り方によりますが、将来的に介護の世代が活用するといったことも想像することができます。小金井市さんから見ると、今回の再開発による人口増は、どれぐらいのインパクトとして捉えているのでしょうか。

田中公共施設マネジメント推進担当課長

既に先行しております南口の第1地区・第2地区の開発時においてもそのようなお話はございました。小金井第一小学校において、児童数にかなり影響が出るのではないかと、学童保育所にも影響が出るのではないかとというお話はあったのですが、実際ふたを開けてみると、それほど極端な影響はなかったというのが正直なところだと思っています。

今回の415戸についても、駅前のタワーマンションという形であり、ファミリー層がどのぐらい入居するのかというのは、正直読み切れないところがございます。学校を管轄する庶務課、学務課、それから学童保育所を運営しております児童青少年課では、それぞれ影響があるのではないかと想定はしているところではありますが、ここまで準備すれば大丈夫であるといった想定までは難しいというのが現状だと思います。

今回の資料ではお示ししておりませんが、この再開発事業

以外の動向としますと、貫井北町の旧公務員住宅の大規模開発や周辺の開発があります。そちらは賃貸の形もありますが、かなり大規模な形でファミリー層向けに開発されており、小中学校等についてある程度、影響は出てくるのではないかと考えております。確実にこれだけの影響がありますという、資料としてお示しするのはなかなか厳しいところです。

土山委員

既に開発されていた事業では、思っていたほどのインパクトではなかったということ、現状どの程度ファミリー層が入居するか未定であるものの、そこまで大きなインパクトではないと感じておられるということで理解しました。

高橋庁舎建設等担当部長

補足しますと、なかなか具体的にどの程度の影響がでるのかという想定は難しいというのが現状かと思います。資料の7ページに、児童生徒数、学級数の変化を示させていただいています。ご覧いただくと、現状からしばらくの間は児童生徒数が伸びていくという想定があります。小金井市の小中学校の施設は、今でも施設に余裕がある状況ではありませんので、学童保育所等も含め対応を考えていかないと現状のままではなかなか収まりきらない、特に学童保育所などについては、そのようなことは想定されるかと思います。

鈴木委員

8ページの集約化・複合化の資料で他自治体の事例を出していただいているところですが、これは他自治体の事例の中から今回の検討において、どのような点で参考になるということでお示しされているのかお聞きしたいと思います。

郷古企画政策課主査

こちらは、いろいろ他市で取り組みがありますという事例にとどまっておりますので、今、市としてこれを推奨しているというのではなく、今回の検討する上で様々な事例等を見ながら、参考にさせていただいた方が良いのではないかと

といった意図でお示ししているものです。意見・提案シートにもございましたが、このような事例を市として取り入れて事業を進める場合は、メリット、デメリットの整理等を行う必要があるかと思います。現状は、他自治体の取組みの一つの事例としてご理解いただければと思います。

鈴木委員 分かりました。ありがとうございます。そのような視点ですと、繰り返しで申し訳ないですが、新庁舎・新福祉会館事業も他市から見ると、先進事例として掲載されるような事業かと私は思います。

郷古企画政策課主査 すいません。他自治体が本市の新庁舎・(仮称)新福祉会館建設事業をどのように見ているかは情報として持ち合わせていません。

鈴木委員 私としては、他自治体から見ると先進の取組みを行っていると思うと思います。このような取組みについては、この検討委員会でも参考になるのではないかと思います。

中谷委員 資料の24ページの公共施設の利用状況で、どのように分析・評価していくのかということについては、今後も継続して検討されるということですが、例えば市営住宅や高齢者住宅の部分で稼働率100%とあり、その横に中分類の平均31というものがありますが、これは何の数値ですか。

郷古企画政策課主査 こちらの情報は、市ホームページで公開しております施設カルテの情報を掲載しております。この中分類ですが、施設カルテにおいて、施設の分類をしまして、その同分類の施設の平均値を示しているものです。中谷委員からご質問いただきましたが、今回の資料としてこの中分類平均の数値は本検討委員会の検討の参考になるものではありません

ので、資料としてお示しするべきではないものかと思っております。申し訳ございません。

中谷委員

分かりました。市民が見たら混乱してしまいそうな数値なので資料から除くといったご対応をお願いできればと思います。

稼働率の評価については、どのように分析・評価するかは今後になるかと思いますが、そのような分析・評価基準等はお示ししていただいた方が議論しやすいのではないかと思いますので、お願いしたいと思います。

市古委員長

ありがとうございます。このようなご指摘もありますので、資料については、できるだけ早めに配布をお願いいたします。その他、いかがですか。それでは、次の議題に進めさせていただきます。

次第の２の(3)「公共施設機能の現状とこれからの在り方について」を議事とさせていただきます。では、まず①「各課ヒアリング結果の概要について」事務局の説明をお願いします。

郷古企画政策課主査

それでは、資料３「各課ヒアリング結果の概要」をご覧ください。本資料は、１０月１１日、１６日、２２日の３日間で、庁舎、保健センター等、今後の施設移転が見込まれる所管課を除きまして、建築系公共施設を所管している１８課について課題等についてヒアリングを行った結果をまとめたものです。

ヒアリング概要としまして、施設名称、課題等、施設利用者からの要望や意見、施設として必要な諸室規模等、他施設との複合化について施設ごとにまとめております。

表内の空白の部分につきまして、補足で説明をさせていただきます。まず施設の利用者の部分ですが、４ページをご覧ください。

ください。4 ページにございます、貫井南センター山車小屋の部分が空白となっておりますが、こちらは、山車を保管している施設となりますので、利用者がいるものではないため空白としてお示しをしております。

次に「施設利用者からの要望や意見」の項目で空白がある施設については、ヒアリングにおいて特段回答がなかったものとしてお示ししております。最後の項目「他施設との複合化」の項目で空白がある施設につきましては、基本的に他の施設との複合化は難しいのではないかと回答した施設についてまとめているところでございます。資料の整理の仕方が分かりづらく、申し訳ございませんでした。

ヒアリング全体の傾向としては、施設の老朽化、設備等の修繕等について各施設とも課題として捉えている傾向がございします。それ以外の主な意見としては、市内の公共施設の約6割の床面積を持っている小中学校は、学校課題の他に学童保育所の課題など、地域の拠点施設としての課題等があります。また、施設の老朽化の対応として長寿命化という考えを持ちながらも、時代の変化によって施設を現在のニーズに適応化していくことが難しくなっている、といった意見が出ています。詳細については、資料をご覧ください。説明は以上になります。

市古委員長

ありがとうございます。本件、ご意見・ご質問等ございましたらお願いします。

鈴木委員

前回、第1回の検討委員会の時も、職員、各課の考えとベクトルを合わせていくべきであるという発言をさせていただきましたが、各課がどのような考えを持っているかについては、とても大事な視点だと思います。

また、資料の「他施設との複合化」の部分ですが、例えば小中学校は空欄になっています。これはどのように捉えれば

いいのでしょうか。

田中公共施設マネジメント推進担当課長 「他施設との複合化」についてですが、空欄になっている所につきましては、現状では他施設との複合化の考えを持ち合わせていないというような意味あいでございます。各課ヒアリングの中では他施設との複合化について、考えを持っていないという回答であったと捉えていただければと思います。

鈴木委員 例えば公民館ですと「学校施設等との複合化の検討は可能」という回答になっていますが、この理由についてはお聞きになっていますか。また、学校施設以外の他施設との複合化はできないのでしょうか。

田中公共施設マネジメント推進担当課長 「他施設との複合化」については、どのような施設と複合化が可能か、また学校施設との複合化は可能かについてヒアリングを実施しています。

各課としては、具体的にどのような施設との複合化が可能なのかどうかということではなく、施設を整備するに当たっての立地条件として、学校の中に機能という形で一部敷地内に入れるなどの運用は可能かどうかという視点において回答をしているかと思います。従いまして、具体的にどのようなところにどのような機能であれば複合化できるといった認識で、各課は答えていないと思いますので、そのようにお答えさせていただきます。

讃岐副委員長 この各課ヒアリングは、前回の検討委員会の後に行われたわけですから、前回の検討委員会の意見を踏まえてヒアリングを行うべきであったと思います。鈴木委員のご指摘はとても大事で、おそらく聞き方が良くなかったのではないかと思います。

これから集約化・複合化という手法が小金井市において手段の1つになり得るとしているわけですから、集約化・複合化には潜在的なポテンシャルがあり、それを引き出すためにそのような手段を取るというメッセージをお持ちだと思います。市民ワークショップをどのように実施していくかということと関連しますが、このように複合化しますというイメージを示していくパターンと、どのような複合化等であれば面白いと思いますかなど、様々な聞き方はあると思います。今回の各課ヒアリングは今ご説明された趣旨で実施されたことは理解しましたが、とても大事なヒアリングだと思いますので、鈴木委員からのご意見を踏まえて、ぜひ別の聞き方をするなど、継続していただけると良いのではないかと思います。

市古委員長

ありがとうございます。ちなみに資料2の他市の事例で、志木市の事例が示されています。学校、公民館、図書館の複合施設を整備し、高機能化・多機能化したことにより、小学校では学習環境の質が向上し、公民館・図書館でも学校と連携したより効果的な活用が図られるなど、相乗効果が生まれており、地域のコミュニティ活動の拠点施設となっているようです。このような観点ですかね。

土山委員

老朽化等に対する建て替えのタイミングというのは、複合化・集約化のことも考えますと、重要なものかと思います。

公共施設等総合管理計画を拝見しますと、学校施設は昭和40年代、50年代に建てられた建物が多く、ヒアリングを拝見していても、老朽化や35人学級の対応、バリアフリー対応など考えますと、公共施設の最適化というようなことを考えた時に、具体的な対象の施設になり得る大きい部分が、小学校・中学校になるのではないかと見ております。近年、他自治体では小中学校の再編に取り組んでいる自治体もあ

りますが、特に小学校の再編に当たっては地域のアイデンティティの問題があり、なかなか大変だと思いますが、それを避けることは難しいかと思います。

今回の各課ヒアリングでも学校についてのコメントが出てきていますが、教育、子育て施設は学校との集約化等がしやすいのではないかと思います。近年やはりそうした子育てや教育に関わる施設のアップデートについては社会的にもそれなりに意義を持たれていますし、そういった意義があるものと感じています。

率直に申し上げますと、学校施設の改築・更新をめぐって集約化等を考えるというのが、具体的な事案、事例としては多いのかなと思います。そうしますと、これから検討するさまざまな施設の複合化というところに、学校教育施設が物理的な量やインパクトとして持つ意味というのは、それなりのボリュームや大きさとしてあるものかと考えます。

学校や教育施設の複合化を考える時の具体的な内容と、それ以外の公共施設のことを考えるプロセスとでは、それなりに違うだろうと感じていますが、そのような認識で良いか教えていただければと思います。

田中公共施設マネジメント推進担当課長 土山委員のおっしゃられるとおり、本市の学校施設は、公共施設の延べ床面積の約6割を占めていますので、当然このような話になってくるわけです。

また学校を除きますと、一定の面積・床面積等を確保できるような市有地を保有していないということがあります。今、5,000㎡を超えるような床面積が確保できるという形になりますと、本庁舎がある敷地、それと本日の資料でご説明をしております東小金井駅のまちづくり事業用地、この2つということになってございます。複合化などを将来的に考えていきますかというお話になって、大きな面積が必要という話になると、その2箇所と学校になりますので、ウエイトと

しては大きくなっていると考えております。

土山委員

ありがとうございます。そうであるならば例えば、学校を中心とした教育施設に関わる部分というのは、論点として別くくりに出して整理できるのではないかと考えられますよね。第1回検討委員会で学校がたくさんあるとご説明をいただいておりますので、今後の検討の在り方のところで、全体的な議論をしていくということではあるものの、学校を中心とした複合化を特出しとして検討されることもあり得るのではと思っています。

学校を中心とした複合化ということで議論するということと、全体的な総論的に公共施設を議論するのと、少し具体化できるものが違うのではと思います。学校施設の複合化については、公共施設全体の検討とは別に行うことを考えているのでしょうか。

市古委員長

趣旨としてはそのとおりかと思います。

浅野委員

小金井第一小学校は校舎建て替えの第1号となります。先ほどからたくさんご意見出ていますように、とにかく35人学級になってから、本校をはじめ、どの小学校も教室が足りません。毎年のように3学期に特別教室、特別教室というのはランチルームやコンピュータールームなどですが、この特別教室を普通教室にせざるを得ない状況です。これまではそのような対応で何とか教室数を確保してきましたが、もう限界まで来ているということで、来年度から本校は校舎建て替えに入ります。

当初は小金井第三小学校が最初に建て替えの計画があったのですが、小金井第三小学校の児童数の増加に伴う大規模化を抑える緊急措置として、小金井第三小学校の新1年生に限り、隣接校への希望がある方については指定校変更を認める

ものとした制度ができ、小金井第三小学校から本校に多くの児童が指定校変更で入学されました。このことにより、小金井第一小学校の児童数が増え、結果として教室数が不足することとなり、来年度から建て替えを行うこととなっています。他の学校、本校も含め築50年ですので、当然老朽化もしていますし、ここに記載されているとおりトイレはいまだに和式のものが多く、大雨が降ると毎回雨漏りもするのですが、なかなか改善されません。どこの学校も同じ課題を抱えています。

校舎建て替えに当たっては、これまでも教育委員会の担当課、それから小金井市では全校コミュニティ・スクールになっていますから、学校運営協議会でも協議を重ねています。本校は、図書館本館の隣にあることから図書館と行き来ができるようなこと、地域の方が使う部屋などについても設置できるように検討してきています。

さらには学童保育所の使用する部屋が不足しており、公民館で学童保育所の機能ができないかといった検討もされているようですが、本来、学童保育所が入る部屋をたくさん学校の中に設けておくことが児童にとっていいのではないかと思います。実際、武蔵野市などは1階のフロアを学童保育所として使用している学校もありますので、そのようなことが今後の可能性として出てくるのではないかと思います。学校施設の建て替えにおいては、様々な複合化というのが、今後見込まれるのではないかと、実際今、建て替えに取り組む中で感じております。

市古委員長

ありがとうございます。前回、浅野委員がご説明くださいましたが、建て替えに当たって校庭に中庭を作り、図書館から借りた本を中庭のベンチに座って読めるような素敵な計画があるとのことのご紹介もございました。そうするとやはり事務局の聞き方が良くなかったのではないかと思います。

小西委員

以前、市長と市民の方が対話するタウンミーティングに参加した際、小学校に通っているお子さんの保護者から「本当に環境が悪い」、「トイレがずっと古くて全く直してもらえない」という、切実な意見を聞いたことがあります。

これまでこの検討委員会では、公共施設についてフラットに検討を進めていくものと認識していたのですが、やはり小中学校は切実度が違うのではないかと、各課ヒアリングシートを見て感じています。その場しのぎの補修では間に合わなくなっている施設が出てきているのではないかと思います。優先度をつけるといいますか、小中学校がぼろぼろなのに、きれいな新しい図書館ができたとしても、市民の方が喜ぶのかということは少し疑問に感じていますので、優先度をつけていくことは必要かと思います。

中谷委員

教育委員会として教育施設を充実させる、整備するということは、そのとおりだと思っています。それで教育施設がある所に他の公共施設を複合化するとした時に、敷地面積に対して教育施設の建物があるわけですから容積率などを鑑みると、結局、実現するには階数を上に伸ばさないと複合化していくのは難しいですね。

今後10年、20年経過し学校施設の更新を進めていくとしても、都市計画上の建築制限等がある中では、階数を上に伸ばしていくことになるのかと思いますが、児童生徒の安全性や避難経路などを考えると、単純に階数を上に伸ばすのもどうなのかと素人の考えですがそのように感じました。

小金井市は行政地域で持っている資源、土地が少ないという特異性がありますので、単純に施設を増やすことにはならないと思います。総量抑制の目標がある中で、学校や他の公共施設を複合化していくことを検討するのであれば、建築制限を踏まえたそれぞれの余力がどの程度かといったこと

がないと議論することも難しい面があるのかなと思います。

また、福祉施設関連の作業所や放課後デイサービス、そのようなサービスも小金井市では不足しているのかと感じています。学校施設にそのような作業所などを複合化できればいいのではないかという思いがあるのですが、現状の学校施設は教室数が不足している状況です。そのような状況を踏まえると、敷地や空間を最大限活用するという視点も必要になると思いますので、今後そのような視点をもって教育委員会と話をしていただかないと、既存の学校施設には入りきらないのではないかと思います。

市古委員長

ありがとうございます。例えば浅野委員から言及があった学校施設長寿命化計画の考え方については資料には入っておりませんので、資料についても工夫をしていただければと思います。

谷越委員

資料3を見ますと、施設が老朽化しているということが多くでてきます。小中学校でも記載がありますが、雨漏りが多く発生していますと躯体がぼろぼろになっている恐れがあり、その対応は優先度が高いものと思います。各施設の老朽化の状況が具体的にどのようなになっているのかということも気になるところです。

それから施設の複合化を小中学校で行っていくのであれば、児童生徒の考えも踏まえて取り組んでいただければと思います。今後、段階的に空き教室ができる可能性が出てくるのかもしれませんが、その都度、児童生徒に問いかけるようなやりとりができると良いのではないかと考えております。

市古委員長

ご意見として承ります。事務局においては、教育委員会にお伝えください。

田中公共施設マネジメント推進担当課長 学校施設長寿命化計画の関係も
ございますので、教育委員会とは引き続き連絡を密に進めて
いきたいと思っておりますし、このようなご意見をいただいた
ことについては、お話をさせていただければと思います。

ただ、複合化など個別の事案については、学校施設長寿命
化計画があり、個々の施設の更新についてはその中で計画を
しております。学校施設の一つずつをこの検討委員会で検討
していくものではございません。おっしゃっている意図は理
解するものですので、これは宿題とさせていただきます。

市古委員長 他自治体の事例で、子どもが参画されている事例を探して
みていただけるとよろしいかと思います。

鈴木委員 資料 7 ページをご覧くださいなのですが、ここで小金井
市の児童生徒数の推移の資料が示されています。令和 10 年
度まで児童生徒数は増え続けるとなっております。今、少子
化と言われる中でも、小金井市は増えていくよということ
です。そのような状況を踏まえると、小中学校が廃校になる
ということは、現実的ではなく、他の公共施設と複合化する
というのは、なかなか難しいのではないかと考えます。複合化
ではありませんが、夜間に学校の教室を学校活動以外で利用
したり、またプール施設の地域との共同利用、民間施設活用
なども考えられます。学校のプールは、猛暑でプール指導が
実施できなかったという声も聞きますし、高額な維持管理費
も必要になるかと思いますので、何か良い利用方法があれば
と思います。

市古委員長 ありがとうございます。その他、何かございますか。よろ
しいでしょうか。

それでは、次に次第の 2 の(3)「公共施設機能の現状とこれ
からの在り方について」の②「職員検討会について」、事務局

の説明をお願いいたします。

郷古企画政策課主査 それでは、資料４「公共施設在り方・再編方針策定における職員検討会（第１回）結果概要」をご覧ください。職員検討会の目的は、これからの時代に必要な公共施設の在り方について、施設を所管している職員による検討を行い、公共施設の在り方・再編方針の策定につなげていくこととしております。

 今月５日に第１回職員検討会を開催し、建築系公共施設の所管をしている係長職以下の職員２０名が、ワールドカフェ方式により検討を行いましたので、資料に沿って第１回職員検討会の結果概要の説明をさせていただきます。

 まず、「１、実施概要」ですが、目的・参加人数については、先ほど説明させていただいたとおりです。テーマは、「将来ニーズを踏まえた確保すべき公共サービス・機能」とし、検討を行っております。

 次に「２、結果概要」です。将来予測としましては、資料に記載のあるとおり、「人口減少、人口構成の変化」により、人材・人手不足が生じること、「市民の価値観・ニーズの多様化」によって求められる機能・サービスの細分化・個別化が進むこと、最後に「デジタル技術の活用」として、今後の行政サービスにもデジタル技術の活用が進むという意見が出ております。

 これらの将来予測を踏まえて、最終的に「これからの公共施設サービスの方向性・在り方」として出た意見としましては、「場の提供」、誰もが自由に立ち寄り利用でき、多世代交流が可能なフレキシブルな利用ができる施設、デジタル活用による効率化、民間施設活用や近隣市との広域連携の推進という意見がありました。

 また、施設の維持管理の観点で、施設管理の一元化を行うことで、業務の効率化等が図れるのではないかとといった意見

がありました。資料の２ページから４ページにかけましては、各班のワークの内容をまとめたものです。詳細は資料をご覧ください。説明は以上です。

市古委員長 ありがとうございます。本件ご意見・ご質問等ありましたらお願いいたします。

中谷委員 ２０名の職員が参加しているとのことですが、入庁して何年目くらいの職員が参加したのでしょうか。

郷古企画政策課主査 入庁何年目までの数字は持ち合わせておりませんが、係長職の参加が多かったので、入庁１０年以上の職員が７割以上占めていたかと考えております。

中谷委員 分かりました。ありがとうございます。

谷越委員 自動運転の検討という意見が出ていますが、施設の老朽化に伴い修繕、建て替えを検討する際に、なるべく将来的に自動で管理する枠組みを最初に構築しておく、エネルギー管理ですとか、設備系の管理を遠隔で自動管理するようなことがやりやすいと思います。それから、少し難しいかもしれませんが、セキュリティエリアをなるべく狭くしておく、将来的に無人化が可能になるかと思っています。

市古委員長 ありがとうございます。大事なご意見と思います。結果概要の「変化すべき機能・サービス」のところで、「ＩＣＴやＡＩ活用により、施設からサービス提供への転換」がありますが、デジタル活用による効率化を考えつつ、ハコモノもそれを見越しての運行、デザインが必要ということです。

小西委員 資料の３ページ、２班の意見の中に「電子図書の活用（所

蔵と配送中心へ)」というのがございます。図書館をいろいろな場所にたくさん設置するのは、費用がかかり難しいのではないかと思います。近年、いろいろな自治体で駅前などに無人でポストを設置し、予め図書館職員が予約されている本を配送しておくことで、予約された本人がマイナンバーなど、本人認証できるようなものを利用して、無人ポストで本を受け取れるようにする仕組みが始まっています。この仕組みを活用できれば、設備費用をあまりかけずに、いろいろな場所に受け取りだけにはなるものの、図書館機能を持たせることができるようになります。手軽な複合方法として個人的にぜひ進めていただきたいと思います。図書館の返却ボックスはいろいろな場所にありますが、受け取りができる場所が少ないので、この職員の皆さんの意見に私も賛同しますし、進めていただきたいと思います。

谷越委員

電子図書や予約をできる場所を駅前や公共施設に入れ、さらにコミュニティとして活用できるように工夫していけたら、もっと良いかと思います。

例えば、子どもがお薦めをした本を公共施設の何か所かに、冊子ではなく、冒頭文の部分だけ設置しておく。気になる本があれば、その場で予約したり、ポストで受け取りができたリ、その感想を送るとお薦めしたその子に届くなど、もっとコミュニティとして交流がたくさん生まれてくると良いのではないかと思います。電子化をしてしまうと少し寂しさを感じてしまうところがあるので、電子化で失われてしまうような交流をもっとできるような取り組みができれば良いと思います。

市古委員長

わくわくする話ですね。ありがとうございます。

讃岐副委員長

2点あります。まず、この職員検討会は2回予定されてお

り、第1回は20名の職員が集まって、2時間の検討をされておりますが、様々な意見を意欲的に出していただいていると思っております。それで、このような検討会が2回で終わるのが、すごくもったいないと思います。

このような意見出しというのは、2回実施して終わりにしてしまうと継続性がなくなってしまうと思います。参加していただいた職員の皆さんが、この検討会の時間に共有したわくわく感みたいなものを続けていく必要があるのではないかと思います。このような取り組みから出たアイデアが実現していく形を作っていくことこそが、公共施設マネジメントの考え方を職員の皆さまにより浸透させていく、とても重要な取り組みになるのではないかと考えたのが1つ目です。

2点目は、他の委員からのご意見があるかもしれませんが、双方向のやりとりはとても有意義だと思います。例えば、この職員検討会と市民ワークショップ、あるいは公共施設在り方検討委員会、それぞれの位置付けについて職員検討会を1回開催された上で、事務局としてどう捉え、丁寧に考えるかということはとても重要かと思います。

市古委員長

ありがとうございます。貴重なご意見ですね。資料1の庁内検討の部分に「令和6年度の成果を踏まえて継続検討」と記載がございますので、つなげていただければと思います。讃岐副委員長がおっしゃられた、職員の視点から見た公共施設の在り方、再編方針についてのアイデアなどを継続的にご提案いただくと良いのではないかとという大事なご指摘です。

鈴木委員

近年、豪雨や地震などの災害があり、市民はこのような災害に対して関心が高いのではないかと思います。1班から4班までの個別の意見を細かくは読み込めていないのですが、そのような視点の意見があれば、全体をまとめた結果概要の部分にも記載があるべきかと思います。

郷古企画政策課主査　　防災の関係ですが1班、3班、4班とも、公共サービスとして維持すべきことの部分で、防災関係の意見が出ております。結果概要としては、記載しておりませんが、防災の視点というのは職員から意見は出ています。ご指摘を受け、結果概要に記載をしていくよう検討させていただきます。

鈴木委員　　分かりました。よろしくお願いします。

中谷委員　　先ほど、讃岐副委員長からもお話がありましたが、この職員検討会は今後も継続されるのですか。

郷古企画政策課主査　　現時点では、2回で終了という考えでございました。ただ、委員の皆さまからご意見をいただいておりますので、今後については、検討させていただければと思います。

中谷委員　　一番実務に精通し将来のこともある程度わかる、係長職の職員が意見を出してくださり大変面白いなと思って見ていましたが、まとめの部分が抽象的になっている印象を持ちました。これからの市役所業務の中心になる世代の職員ですから、面白い提案が出るのではないかと考えています。責任やこのようなこと言っではいけないということではなく、例えば、このような組み合わせが可能ではないかといったことを出していただくといいのではないのでしょうか。市の財政事情も分かっている、職員体制も分かっている、地域の資源も分かっている、学校のことなど様々なことが分かっている職員が、このような施設の組み合わせをすることが小金井市にとって一番良いのではないかといった意見を出していただく。批判ではなくアイデアとして個別具体的なものを提案していただけると、非常に参考になるし面白いのかと思いました。ぜひこのようなことを継続してやっていただけると、すごく

楽しいと思います。

土山委員 第1回は20名の職員がワールドカフェ方式で2時間、検討をしていただいたことは大きなことかと思えます。第2回目のテーマは、既に決まっているのですか。

郷古企画政策課主査 第2回に関して、説明が漏れておりまして申し訳ございません。第2回は今週の木曜日、10月28日に行く予定です。テーマとしては『市民の居場所をつくる』を達成できる施設とはどのような施設か、「多様化するニーズに応え、誰でも利用できる居場所を、どうしたら実現できるか」の2つのテーマを設定することを考えております。

土山委員 ありがとうございます。

村井委員 3ページの「これからの公共サービスとして方向性・在り方」の項目で、「空き家を活用したグループホーム」というアイデアがありますが、どのくらいの実現性があるのでしょうか。職員からの意見であり、実現性があるのではないかと思っているのですが、実現できるのであれば、世代間の交流など幅がとても広がるものではないかと思いました。その点いかがでしょうかというのが1点です。

2点目は、ITやAIなどDX関連について意見が出ており、今後導入していくことは避けて通れないと思いますが、その場、その場でシステム導入をしていくと、費用がかなりかかるのかと思います。例えば、先ほどの施設の温度管理なども、センサー設備がありそのデバイスが全部その施設に付いているようなケースもあるかと思いますが、それを施設ごとに付けていたら、おそらくかなりの費用がかかるのかと思います。そのあたりを今後、設計していく上で、どのような仕組みを導入していくのかしっかり議論していただきたい

と思っています。

郷古企画政策課主査 1点目の空き家を活用したグループホームの実現性というご質問ですが、この職員検討会は「できるだけ自由な意見を出してほしい」という前提条件を提示しています。そのため、この職員から出された意見について実現性の裏付けとなる根拠までは求めていないところがありますので、実現性があるかということについては、なかなかお答えが難しいところです。前提条件の中での自由な意見として捉えていただければと思います。

村井委員 分かりました。実現性するために乗り越えなければならないものは何なのかということを深掘していただけると、議論がしやすくなるかと思います。

高橋庁舎建設等担当部長 補足します。空き家の活用をした高齢者施設というのは、小金井市でも寄付をいただいた空き家を活用した施設があり、武蔵野市さんでもテンミリオンハウスという取り組みを行っている事例がございます。どこまで数を増やせるか、今すぐ実施することができるということは無理だとしても、実例としては存在しますので、不可能な案ではないという印象を持っています。

村井委員 分かりました。ありがとうございます。

市古委員長 ありがとうございます。その他、何かございますか。よろしいでしょうか。それでは、次に次第の2の(3)「公共施設機能の現状とこれからの在り方について」の③「これからの公共施設の将来ビジョンについて」、④「これからの公共施設の将来ビジョンを踏まえた必要な機能について」、⑤「相乗効果が見込まれる公共施設機能の組み合わせについて」一括して

事務局の説明をお願いいたします。

郷古企画政策課主査 それでは、資料5「公共施設機能の現状とこれからの在り方」をご覧ください。本日の議事の③、④、⑤の論点を整理するために作成した資料でございます。資料の右側に、本日の論点を挙げておりますので、順番に説明いたします。

論点1としては、「これからの公共施設の将来ビジョン」です。資料に記載させていただいたものは、1つの例示として事務局にて示させていただいたものです。

次に論点2としましては、「これからの公共施設の将来ビジョンを踏まえた必要な機能」です。こちらも資料に記載させていただいているものは、1つの例示としてお示しさせていただいたものです。

最後に論点3としまして、「相乗効果が見込まれる公共施設機能の組み合わせ」です。こちらも同様に資料に記載させていただいているものは、1つの例示として示させていただいております。

議事の(1)、検討の進め方で説明させていただきましたが、これらの論点につきましては、次回以降も引き続き委員の皆さまからご意見等をいただきたいと思います。それから、資料の左側には現状の各公共施設について、機能の観点で分類し整理をしたものをお示ししております。分類の仕方として様々な考えがあるかとは思いますが、参考資料として分類をさせていただきました。分け方としましては、大きく4つ、「事務事業等に供する施設」、「市民利用に供する施設」、「利用者が専用する施設」、「付帯的な施設」として分類しております。4つの分類の中に施設名称を記載し、その横にサービス・機能を四角の枠の中に示させていただいております。この論点を議論していただく上で、現状、事務局として提示している資料としては、第1回検討委員会の資料、本日配布しております資料2をご参考にしていただければと思

います。

今後、市民ワークショップ等の結果もお示しさせていただくことになるかと思いますが、この論点につきましては検討委員会でご議論を重ねさせていただきながら、市民参加、庁内検討と連動して検討できればと考えております。

本日は、論点1から論点3まで、委員の皆さまの意見出しになるかと思いますが、ご議論をお願いできればと思っております。説明は以上です。

市古委員長

ありがとうございました。資料5について、ぜひ各委員からご意見等をいただければと思います。論点1、2、3、どの論点でも結構ですのでお願いいたします。

土山委員

先ほどの鈴木委員からのご指摘にもありましたが、資料を見ていて小学校と中学校を減らす必要がない自治体さんであると感じたのと同時に、複合化をすることによって公共用地に空間的に少し空きがでてきたような時に、そのような所をどのように活用するのか。先ほどの学校施設の複合化等のお話であったように、公共施設を縦に使うことによって空間的な空地ができるのであれば、むしろその資源としての重要性というのは、小金井市のように非常に都市的な、また新しい用地の獲得の難しい自治体にとっては、そのような空間的な空地を維持するというのは重要であると思います。先ほど事務局から「資源」という話がありましたけれども、今持っている物理的な面積というのは小金井市にとって非常に有用な資源であるという認識を新たにしました。

市古委員長

ありがとうございます。市有地といいますか、公共用地を資源としてどのように活用していくのかという方向性も、これからの公共施設、機能の在り方に関しては必要というか、そのような考え方はやはりこの委員会でこそ出せるもので

はないかという気はいたします。

鈴木委員

論点 3 で例示されている、教育相談、不登校の学びの場については、私はとても大事なことだと思います。不登校等、行政が支えなければいけないところというのは、これからの公共施設を考える上において、議論を深めていくべきだと思います。

市古委員長

ありがとうございます。そこはぜひ、相乗効果が見込まれる機能の組み合わせとして考えていきたいですね。

小西委員

論点 1 と論点 2 ですが、共通するところが多い印象です。どちらかに集約して、違う切り口がないかということは検討いただけないかと思います。

もう 1 つ、市民の居場所となる暮らしの場づくりということで、憩いの場のような安心して集まれる場所、好きなことできる場所というイメージについては、資料 2 の 4 ページの東小金井のリビング、まさにこの計画のイメージとかなり近いという印象を持っております。東小金井の場所については、現在、駐車場として動かさないということで、後々検討しようということは先ほど説明いただきましたが、実際このように、かなり近いイメージで検討されているものがあるというのは、個人的には大事ななことかと思っておりますし、このような計画も深めながら検討を進めていければいいのではないかと考えております。

梅根委員

いろいろ議論をお伺いしてしまして、私は不勉強で大変申し訳ないのですが、どこが一番の論点なのか、私の中でまだ整理できておりません。そのような意味から言いますと、検討委員会や事務局の方々の優先順位について、自身が市政を動かしている上で考えていらっしゃる優先順位的なところ

をお伺いしたいという意見でございます。

今日の議論を聞いていますと、例えば資料 2 にあります児童生徒数の推移を見ますと、この少子高齢化において中央線沿線という土地柄もあるかと思いますが、これから 30 年ほとんど生徒数が減らない。学校施設が公共施設の 6 割を占めるというところで、このような部分が優先順位として上位に上がってくるではないかという雰囲気といいますか、印象は持っております。それが正しいかどうか分かるような優先順位をいただけると、議論がより進めやすいのかと思っています。

村井委員

梅根委員と同じで、優先順位はあったほうが良いかと思っています。この論点 3 で、学校教育、教育相談と、教育、学校にすることが並んでいるので、ここなのかなとは感じています。ここを中心に色々議論されていくのかと思いました。

1 点、先ほどの資料の中に、その他サービスの提供に駐輪場などありますが、受益者負担で利用料を取られているのかと思います。収支としてプラスにはなっていないとは思いますが、このような受益者負担はあっても良いのではないかと思います。今後素晴らしい複合施設ができた際には、施設の機能等によっては、受益者負担を求めることは、私は良いのではないかなと思っています。

浅野委員

論点 3 がこれからの議題の中心になっていくのではないかと思います。少子高齢化の中で、これだけ児童生徒数が増え続ける見込みの地域というのは、なかなか少ないと思います。児童生徒数が増えていくとともに、施設の老朽化に伴う建て替え等の更新に向っていくと思います。その中で何ができるかというのを中長期的な視点で考えて、更新時にどうしよう、とならないようにしていくことが大事かと思います。

市古委員長

ありがとうございます。土山委員からもご意見がありましたが、子どもの学ぶ環境、子どもの育つ環境という視点から柱を立て、体系化していくのは一つの考え方かと思います。

中谷委員

誰でもみんなが、自由に、目的を限定しないなど、完全フリーのような視点で書かれていますが、裏を返すと制御が利かないことになり、言葉の強い人や目的意識の強い人が出てくる可能性があるのではないかと考えます。施設の利用目的は、フリーであるものの、施設の使われ方は想定する必要はあるのではないかと思います。ただ、フリーに転用できるという視点も必要だと思っていて、世の中の動きに応じてその施設をどのように使うかというのが肝になるのかと思います。利用者には様々な人がいます。他の国籍の方もいらっしゃる、障がいのある方、高齢者の方もいます。考え方としてはインクルーシブ、社会的包摂という考え方があるので、そのような視点は各施設において根底に持っているというのが良いのではないかと考えております。

谷越委員

印象としては、小中学校と他の公共施設が複合化する可能性が高いのかと思いました。ただ、小中学校と他の公共施設の複合化をしていく際、児童生徒の意向を聴かずに大人だけで決めていってしまうのは良くないのではないかと思います。小中学校は子どもが主体の場であって欲しい気持ちがあり、複合化等を行う場合は、子どもの意見を第一に考えながら行っていただきたいと思います。

讃岐副委員長

論点 1 と論点 2 についてですが、まず、市民全員が常時そんなに交流を望んでいるかというと、必ずしもそうではない現状があり、少しきれいな言葉に偏りがちになっているのではないかと思います。

それから、論点 3 として、相乗効果が見込まれる公共施設

機能の組み合わせとありますが、サービス機能を確保するためという言葉は分かるのですが、相乗効果として見込んでいる効果というのは、論点3においてはどのようなものなのか、少し解りにくくもったいないと感じます。学校教育や教育相談などが例示としてあげられていますが、そこに傾きがちな小金井市の公共施設機能のこれからの在り方を考える方向が見えてしまい、少しもったいないと思います。

学校施設の延床面積が約6割あるとはいえ、残りの4割は学校ではないわけですし、学校以外の公共施設による相乗効果、あるいは機能についても議論しなくてはいけないと思います。

市古委員長

ありがとうございます。私からも1点、小西委員からご発言いただいた「東小金井のリビング」、このプロジェクトは広場や公園があるということが大事な居場所というコンセプトです。したがってなかなか建築系の施設に公園・広場を含めることは難しいのですが、この論点1「市民の居場所となる暮らしの場」というのは、建物の中、施設の中だけではなく、広場やオープンスペース含めてといのうがこれからの時代の考え方であり、このようなことも含めて考えていくべきかという印象を強く感じました。

それでは時間の関係もありますので、本日の議論としては以上とさせていただきます。事務局から説明がありましたとおり、次回以降もこの論点については検討をしていきたいと考えておりますので、よろしくお願いいたします。以上で、本件についての質疑を終了いたします。

次に議事の3「その他」です。まず「市民ワークショップについて」、事務局の説明をお願いします。

郷古企画政策課主査

それでは、市民ワークショップについて報告させていただきます。資料6「市民ワークショップの概要」をご覧ください。

ださい。市民ワークショップのプログラムにつきましては、第1回検討委員会にて讃岐副委員長、浅野委員、小西委員より、「集約・複合化の取扱いについて」、「ポジティブな意見の出る場の工夫が必要」、「エリアにどのような施設があると良いかなど意見が出しやすいプログラム」、についてご意見をいただきました。

その結果、再度検討を行い、検討の結果としまして集約・複合化に限定するのではなく、市民の方々がどのような公共施設機能を、どのようなエリアに求めているかといった内容にプログラムを変更し実施することといたしました。参加者募集の周知につきましては、市報11月1日号、市ホームページ、X、市公式LINEで募集の周知をするとともに、市内公共施設、大学等にワークショップのチラシを設置し、参加者の募集を行っております。

なお、村井委員よりご意見いただきました「本検討委員会で仮説を立て、その検証をする場として市民ワークショップで市民意見を頂いてはどうか」というご意見についてですが、こちらについては、市古委員長からも本検討委員会とワークショップが相乗効果を発揮できるプログラムとしていただきたいとご意見を頂いております。

事務局においていただいたご意見について検討いたしました。市民ワークショップにおいて市民の多様な意見等をいただくことに追加して、検討委員会の仮説を検証いただくことになると、市民ワークショップに求める内容としてはボリュームが大きくなってしまわないかという点、それから、今回のワークショップの開催につきましては、今年度3回としており、検討委員会の仮説の検証を行ったとしても、来年度以降は市民ワークショップの開催は現状難しいため、プログラムには反映していないところです。

ただし、委員からご意見いただきました、検討委員会の議論を深めるための工夫というものは、引き続き検討しながら

進めていきたいと考えておりますので、よろしくお願いいたします。
します。市民ワークショップの詳細については、資料をご覧ください。
ください。説明は以上です。

市古委員長

ありがとうございます。ご意見・ご質問等ございますか。
何かございましたら、個別に事務局にアドバイスをいただければありがたいと思います。

それでは次回の委員会の日程について協議を行います。事務局の説明をお願いします。

郷古企画政策課主査

それでは次回の開催日について提案させていただきます。
次回、第3回の候補日ですが、会議室等の関係から3月10日月曜日、3月17日月曜日、いずれも10時から12時分までの時間帯で開催できればと考えております。後日メール等で調整させていただきますのでお願いいたします。
説明は以上になります。

市古委員長

次回の開催日については、事務局にて調整をよろしくお願いいたします。

それでは以上で本日の議事は全て終了でございます。これをもって閉会といたします。皆さん、大変お疲れさまでした。

(午前11時30分閉会)